

“わたしのまち”

# 江東区

## 江東のまちのみどりを感じて

「まちの変化をいかした、江東区の緑道・公園」

江東区にはみどりや水辺を感じられる場所が多く存在します。

こうした場所の中には水運の役割を終えた運河・河川や都電軌道の跡地利用など、

変わりゆくまちの変化をいかして整備されたところも少なくありません。

今回は、みどり豊かな江東区のおすすめスポットとその背景を紹介します。

23区中から大量のごみが運ばれる夢の島（昭和36年）



現在のみどりあふれる夢の島緑道公園。マラソンランナーが疾走



### 江東区のまちの変化

#### 失われたみどり、きれいな空気を回復

江東区は、昭和20年3月10日未明の東京大空襲で都内最大の被害を受け、区内のほぼ全域が焦土となりました。

昭和20年代、戦後のたび重なる困難や混乱の中、区民の不断の努力や特需景気などにより、焼け跡の灰の中から復興と再建を遂げました。

しかしその一方で、昭和30～40年代の高度経済成長期には環境汚染が大きな社会問題となりました。とりわけ「ごみ問題」では、江東区が23区内全体的のごみの最終処分を一身に負い、区内は長年にわたり悪臭やハエの大量発生、ごみ運搬車の交通渋滞、ごみや汚

汁の飛散等に苦しみ続けてきました。

そのような中、江東区では昭和48年に、これまで大きく失われていったみどりを保護・育成し、きれいな空気を取り戻すため「みどりの条例」を制定し、区内の緑化を進めていきました。

#### 河川等の特色をいかして公園整備

区では、緑化を進めるにあたって、持っている資源を最大限活用して取り組んできました。

中でも特徴的なのは、親水公園の整備です。区内を縦横に流れる河川や運河のうち、水運が行われなくなった川の水路幅を埋め立てて狭め、水に親しめる大規模な公園に整備しました。親



江東区内でも最大規模となる木場公園。江東区民まつり中央まつりも開催される

水公園は、区民の憩いの場として利用されるだけでなく、台風時などの水害対策の効果もあります。また、かつて区内各地を縦横に走っていた都電軌道の跡地を利用して、緑道公園に整備していきました。

### 23区で1番の「みどり率」

このように、区内を横切っていた河

川や運河、都電軌道の跡地の有効活用、その他にも、臨海部の埋め立て地の開発、区内全域の緑化に対する環境整備が進み、今では区内各地にみどりがあるようになるようになりました。

現在の江東区を見ると、昭和48年には緑被率（対象となる地域の面積に対して緑被地が占める割合のこと。平面的にみどりの量を把握するための環境指標）11・8%だったものが、平成24年には19・9%まで増加しました。これは23区中8番目（平成24年度時点）となっています。

また、みどり率（緑被地に公園内の緑被地以外の面積と河川等の水面面積を加えた割合）は36・4%で23区中1番目となりました。たくさんのみどりと、内部河川や運河、湾岸などの水辺の多さといった恵まれた環境が「水彩都市・江東」を体現していると言えます。

## 江東のみどり、おすすすめの場所

### 水辺も楽しめる親水公園

区内の代表的な親水公園として横十

間川親水公園や仙台堀川公園が挙げられます。横十間川親水公園は、大横川から小名木川までの長さ1・9キロの



昔の横十間川・仙台堀川（上）と現在の横十間川親水公園（下）。現在は、区民の憩いの場となっている

親水公園で、誰もが楽しめるボート乗り場や野鳥の島、生物の楽園などがあります。

また、週一日はボランティア団体である「和船友の会」により木造和船も運航され、櫓こぎ体験もできます。

こどもたちには水上アスレチックが人気で、水上に設けられている遊具やターザンロープなどを使って遊ぶこともでき、水辺遊びが思う存分楽しめます。生物の楽園にはしょうぶ園や水田も設けられており、来園者が思い思いに楽しめます。

仙台堀川公園は大横川から小名木川合流点までの総延長3・7キロ、面積にして10・4ヘクタールとなる都内で



も最大級の親水公園として知られています。

園内にはたくさんさんの桜並木があり、春先は多くの花見の人でにぎわいます。また、花の小径、果実の森や科学の森など7つの森で果実や紅葉を楽しめるなど豊かな自然が感じられます。

その他にも、やすらぎの滝や八つ橋の池で子どもたちが水辺を感じられるだけでなく、大人も園内の陶壁や護岸ギャラリーなどで芸術を楽しんだり、魚釣場で魚釣りを楽しんだりすることもできます。

この仙台堀川公園と横十間川親水公園は途中で交差しており、当時の川のつながりが感じられます。

広々とした芝生の上でバーベキューが楽しめる若洲公園



## 大きい広場の公園

木場公園は、総面積24・2ヘクタールの大規模な公園で、木場公園大橋を挟んで南北に広がります。広い園内は豊かなみどりに包まれています。また南側のふれあい広場は大規模な芝生広場が広がり、穏やかな時間を過ごすことができます。

毎年10月には江東区民まつり中央まつりのイベント会場にもなるなど大勢の来園者でにぎわいます。入口広場の中央にはイベント池があり、貯木場があった木場ならではの民俗芸能である木場の角乗が披露され大勢の来園者を沸かせます。

その他にも、広大な敷地にみどりが

広がる亀戸中央公園や、昭和天皇御成婚記念として下賜された用地と貯木場跡地を活用した猿江恩賜公園など、区民の憩いの場になる公園が広がります。

## 運河沿い・湾沿いの公園

若洲海浜公園や辰巳の森海浜公園など、河川・運河沿いや湾岸に広がる公園が多いのも江東区の特徴です。

辰巳の森海浜公園は、芝生を中心とした広大な多目的広場だけでなく、テニスやパターゴルフを楽しめる施設やバーベキュー広場があります。若洲海浜公園は、ゴルフ場、ヨット訓練所のほか、海釣り施設、人工磯、サイクリングロードなどの関連施設があります。隣接する若洲公園には、キャンプ場もあり、東京湾に面した広大な土地をいかした施設で自然を感じながら楽しめる公園となっています。

豊洲公園は、超高層建造物や商業施設の中にある広大な芝生広場を持った公園です。運河沿いで水辺を感じられるだけでなく、夜景がきれいな場所として人気があります。

区内にある緑道公園では、都電軌道の跡地を造成したものとして、亀戸緑道公園や大島緑道公園、南砂緑道公園

があります。歩行者や自転車に乗る人が通る道沿いに桜などが植樹され、近

隣に住む人たちも身近に自然を感じられるようになっていきます。

## みどりの豊かさを感じるまちに

### 江東区CIGビジョンの取組

このように、区内には公園や緑道を中心にみどりの豊かさを身近に感じる場所が多くありますが、区ではさらに緑化を進めていくために「都市の中のみどりを増やす」という考え方でなく「みどりの中に都市がある」という「CITY IN THE GREEN (CIG)」を掲げています。

平成24年7月に策定した「江東区CIGビジョン」のもと、世代や立場を超えたみんなが一緒になってみどりを

育み、環境に配慮した品格のあるまちづくりに取り組んでいます。

みどりの豊かさを実感する取組として、地域で自分たちの手によってまちなかのみどりをつなげ広がっていく「まちなか緑化」や集合住宅に居住している人を対象とした「ベランダ緑化」など、画期的な試みがすでに始まっています。

これまでは、今までにある資源を最大限活用した緑化に取り組んできましたが、今後は行政だけでなく区民や事業者との協働を進めることで、区内のみどりはさらに豊かになっていきます。

## 江東区の描く将来像

平成21年3月に策定した「江東区基本構想」で、今後20年を展望し「みんなで作る伝統、未来 水彩都市・江東」を将来像としました。また、めざすべき江東区の姿として、「水と緑豊かな地球環境にやさしいまち」を項目の一つに決めました。

江東区CIGビジョンの中では、1. まちづくり 2. 文化創造 3. 区民生活 4. 協働 5. 基金活用 の5つのビジョンを掲げ緑化推進に取り組んでいます。



みどり豊かな環境整備には区民の協力も  
上：ベランダ緑化  
下：まちなか緑化

